

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般 - 99

学校名・団体名	阿南市立椿町中学校
HPアドレス	http://e-school.e-tokushima.or.jp/anan/jh/tsubakimachi/html/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	地域や家庭と連携して行う心の教育
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>学校における心の教育の中核となるのは道徳教育であり、それは毎週の道徳の授業を核としながら、日常生活の様々な場面や機会を通して行われるものである。その道徳教育をより実のあるものとするために、学校生活の中だけではなく家庭や地域との協働体制の中で道徳性を育む工夫が求められている。</p> <p>本校は農漁村を校区とする全校生徒20名の小規模校である。生徒は素直で純朴であるが、集団が小規模であるため多くの人と関わる機会、様々な意見や考えをもった人たちと人間関係を構築する機会が乏しい。</p> <p>そこで、家庭や地域と連携を図ることにより、様々な人との関わりの中で生徒が様々な道徳的価値を体験し、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる機会を意図的・計画的・継続的に仕組むことにより、これからの社会を生きる生徒に豊かな人間性を育み、心の教育の充実を図る。</p>	

取組の概要と成果

(1) 道徳授業の授業参観 (4月23日)

毎年4月に行っている年度当初の授業参観を本年度は全学年「道徳」で行った。授業で扱うテーマについても全学年共通のものとし、次の(2)の活動とも関連させ、自然災害発生時の判断力・行動力・共助心の育成や生命尊重に関わるものを扱うこととし、1年生は「奇跡の一本松」2年生は「防災マップ作戦」3年生は「災害クロスロードゲーム」を取り上げた。授業では参観に来てくれた保護者の方と一緒に考えたり活動したりする場面を設けるとともに、授業で学習したことをもとに家庭でも話し合うことのできるように授業展開を工夫し、家庭との連携を図りながら授業を行った。

(2) 小中合同ふれあい防災オリエンテーリング (5月24日)

学校のすぐ裏が海であり、南海トラフ地震が起こった際の津波浸水地域に指定されている本地域では、防災意識の向上や、緊急時の判断力、行動力、共助心の育成が急務である。そこで、校区内の小学校や保護者と連携して、児童生徒保護者合同で避難場所の確認や防災意識の向上を図る小中合同ふれあい防災オリエンテーリングを実施した。生徒からは「小学生や保護者の方たちといっしょに行動する中で、小学校1年生の子のペースに合わせたり途中で休憩をとったりするなど中学生としていろいろ頑張った。クイズの答えを考えるとときも保護者の方に教えてもらったり、小学生の意見を取り入れたりしてみんなが納得いく答えを出すことができた。この防災オリエンテーリングで小学生や保護者の方と仲良く話ができとても楽しかった。また避難場所へ実際に行くことで避難ルートがとてもよくわかった。」「今まで言ったことのない道を知ったり、防災に関する豆知識を知ったりするなどとても良い体験をすることができた。小学生や保護者の方たちと一緒に教えてあげながら行動することによって仲が深まり、避難場所も覚えることができた。小学生は私より知っていることがたくさんあったので、本当に教え合うことができる行事だと思った。」といった感想が聞かれた。



(3) 蒲生田海岸清掃 (6月12日)

地域にはうみがめが上陸・産卵する蒲生田海岸がある。近年上陸数が減ってきていることもあり、環境保護の精神を高めると共に、うみがめの産卵を通して生命に対する畏敬の念や郷土愛を育てるために、地域の方や保護者と協働して海岸清掃に参加した。生徒は流木やプラスチックゴミなどを袋いっぱいになるまで集めており、この活動を通して自然愛護の精神や、勤労の貴さ、郷土を愛する態度を育むことができた。



(4) 離島の中学校との交流 (5月20日, 7月31日, 11月8日, 11月22日)

前述したように本校は小規模校であるために人間関係が限定されている。同様の課題は本校の沖合にある離島の中学校も抱えている。人間関係の広がりや深まりを図るために両校が交流し協同して活動を行う機会を設け、交流学习を実施した。1回目は本校でバーベキュー大会を通して交流を行った。2回目は離島の学校を全校生徒で訪れ、島の散策やグランドゴルフ交流、海水浴などの活動を合同で行った。3回目は市の音楽祭へ合同参加、4回目は本校で終日の合同学習を行った。こうした交流活動を通して集団の規模が大きくなることにより、相互理解・寛容の精神や、集団生活を充実に向けての態度の育成を図ることができた。

(5) 赤ちゃん授業 (6月29日, 10月28日)

地域で乳幼児を育てている保護者やその乳幼児を学校に招き、ふれあいを通して乳幼児の成長や命の尊さを実感させ、将来の育児不安の減少やコミュニケーション力を養うために赤ちゃん授業を年2回実施した。生徒は事前に助産師の方や保健師の方から赤ちゃんの発達や安全な関わり方を学び、妊娠したときの対応から産むまでの過程や抱っこの仕方やおムツの替え方も教えていただいた。育児休暇中の本校の教員も参加してくれたため、産前産後の様子を自分たちの身近な先生を通して知ることができた。みんなを笑顔にさせる赤ちゃんのパワーと、子育てという大事な役割を担っている母親たちの姿は生徒に大きな学びと優しさを与えた。生徒からは「抱っこすると私の目を見てきてかわいかった。」「おむつの正しい替え方、抱き方を知り、赤ちゃんを大切に作る気持ちも大きくなった。」といった感想が聞かれた。また赤ちゃんを連れてきてくれた地域の母親方から出産や育児の話聞き、生徒は「子育ては大変だけどとても楽しいと言っていたお母さんはとても幸せそうだった。」「夜中に3回ぐらい夜泣きをすると聞いてびっくりした。子どものことを大切にしていることがわかった。」「赤ちゃん授業を終えていろいろなことを学んだ。赤ちゃんが成長していることと、自分にもこんな時期があったんだなと思った。抱っこしたときにずっとしていたのが印象的だった。」といった感想が聞かれた。生徒は命の大切さや、子育てをする親の思いの尊さに気づき、人に



対する思いやりや命の尊さについて考えを深める貴重な機会となった。

(6) 資源回収～リサイクル運動 (8月27日)

校区内全域の家庭に呼びかけ、段ボールや古新聞、雑誌などを回収してリサイクルに役立てる資源回収を夏休み中の登校日に実施した。回収の際には保護者と生徒が協力し、手分けして校区内全域を回るなど家庭との連携を図りながら実施し、当日は多くの資源が集まった。この活動により、環境に対する意識の向上を図ると共に、勤労の意義や大切さ、勤労を通じて社会に貢献することの意義について生徒は考え、勤労を通じた社会参画についての意識の向上を図ることができた。



(7) 人形浄瑠璃体験 (10月21日)

当初計画では三味線を通して日本の伝統文化に触れることを計画していたが、講師の確保や日程調整が難しくなったため、人形浄瑠璃を通して日本の伝統文化に触れる体験活動を行うことにした。本県出身の勘緑さんを講師に招き、公演参観や人形遣いの体験を通して人形浄瑠璃の難しさや奥深さを生徒は体験を通して理解するとともに、徳島県は全国でも農村舞台の多い県であるということを知り、郷土の文化を育み守り育てることの意義や大切さについて生徒たちは学習した。当日は地域の方も学校に招き、子どもの活動の様子を見ていただいた。体験後、生徒は「今まで人形浄瑠璃を見たことがなかったのですごくいい経験になった。また見たいと思った。」「人形遣いの体験で、人形が歩くには私が足踏みをして、それを人形を遣っている3人で感じとらなければいけないので息を合わせる難しさを実感した。しかし、座らせたり立たせたりする動作がきちんとできたときはとてもうれしかった。この体験を生かして、人形浄瑠璃の楽しさや大変さを伝えていきたい。」「徳島はすごく人形浄瑠璃がさかんなことを知った。人形浄瑠璃で町おこしをしているところがあると言っていたので、この椿町も何かで町おこしができたらいいなと思った。」といった感想が聞かれた。



(8) 地域の高齢者の方との交流 (1月25日)

少子高齢化が進み、高齢の方が比較的多い本地域でも生徒が高齢者の方とふれあう機会はどう多くない。そこで、高齢者に対する敬愛の念や地域の一員としての自覚を育むため、地域の高齢者のグループ(シニアクラブ)とグランドゴルフを通じての交流会を実施した。当日は晴天にも恵まれ、生徒は高齢者の方にプレーのやり方やコツを教えてもらいながら、和気あいあいとした時間を過ごすことができた。この交流を通して生徒の心には、郷土意識や地域社会に対する連帯感だけでなく、地域の発展のために努力してきた高齢者への尊敬と感謝の気持ちが育まれた。

(9) 心を育てる講演会 (11月2日, 1月31日)

高知県出身の路上詩人、はまじさんを招き、ご自身の体験をもとに、挑戦していくことの大切さ、生きるということの意味などについて生徒に語ってもらう講演会を行った。講演会の後は生徒一人一人に、色紙にメッセージを書く書き下ろしを実施し、生徒にとってこれからの生き方をしっかり見つめるよい機会となった。生徒からは「今日の講演は一番よかった。はまじさんはすごい人。私たち一人一人に書いてくれた色紙の言葉は、それぞれに合っているのでびっくりした。あの色紙は本当に一生の宝物。はまじさんに会えてよかった。」「今日の講演会はとても感動した。なぜその人を1回見ただけで、あんなに色紙の言葉がすらすら出てくるんだろう。すごい人だった。講演もいろいろと考えるいい機会になった。」という感想が聞かれた。



1月31日には保護者を招き立志式を実施したあと、講師として鈴木綾子さんを招いて「こころ鴉色にそめて」の演題で講演会を行った。若くして息子さんを急性白血病で亡くされた実体験を通して、命の大切さや生きるということの意味について語りかける講師の話は、生徒の心に深く刻み込まれるものがあった。

こうした活動を通常の道德の授業と関連させて取り組むことにより道德の授業が充実し、豊かな心がいつそう育まれてきた。また、家庭や地域との連携を深めることで多くの人と関わる機会が増え、体験多様な価値観を持った人たちと共に生きる力や社会性の育成、新しい自分の発見による自尊感情の育成が図られてきた。また、こうした成果はこれからの社会を担う意欲と実践力溢れる人材の育成につながると思う。

こうした取組を学校だよりや学校のホームページを通じて情報発信し、「開かれた学校」「地域とともにある学校」への取組を推進し、学校がコミュニティの核のひとつとなり、さらに地域の活性化が図られるよう努めていきたい。